



2018年12月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2018年11月5日

上場取引所 東

上場会社名 ユニ・チャーム株式会社

コード番号 8113 URL <http://www.unicharm.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 高原 豪久

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 経理財務本部長 (氏名) 岩田 淳 TEL 03-3451-5111

四半期報告書提出予定日 2018年11月7日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（証券アナリスト・機関投資家向け）

(百万円未満四捨五入)

1. 2018年12月期第3四半期の連結業績（2018年1月1日～2018年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		コア営業利益		税引前四半期利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年12月期第3四半期	498,115	7.0	75,808	13.8	73,905	10.4	52,475	8.9	47,086	7.9	44,805	△14.6
2017年12月期第3四半期	465,592	7.5	66,632	26.0	66,966	37.7	48,177	36.0	43,622	34.7	52,441	—

(注) コア営業利益は、売上総利益から販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2018年12月期第3四半期	79.85	77.80
2017年12月期第3四半期	74.21	71.89

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2018年12月期第3四半期	788,950	507,194	444,206	56.3
2017年12月期	736,644	453,029	387,567	52.6

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年12月期	—	9.00	—	11.00	20.00
2018年12月期	—	12.00	—		
2018年12月期（予想）				12.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2018年12月期の連結業績予想（2018年1月1日～2018年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		コア営業利益		税引前当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	687,000	7.1	94,000	8.2	93,000	0.1	59,000	11.8	98.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）DSG International (Thailand) Public Company Limited
(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記（5）要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 2. 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：有
② ①以外の会計方針の変更：無
③ 会計上の見積りの変更：無

(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記（5）要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 3. 重要な会計方針」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2018年12月期3Q	620,834,319株	2017年12月期	620,834,319株
② 期末自己株式数	2018年12月期3Q	24,346,661株	2017年12月期	35,097,927株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2018年12月期3Q	589,711,446株	2017年12月期3Q	587,798,053株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- (1) 当社が公表するコア営業利益はIFRSで定義されている指標ではありませんが、当社の経常的な事業業績を測る指標として有用な情報であると考えられるため、開示しております。
- (2) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	5
(2) 要約四半期連結損益計算書	7
(3) 要約四半期連結包括利益計算書	8
(4) 要約四半期連結持分変動計算書	9
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
1. 継続企業の前提に関する注記	11
2. 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	11
3. 重要な会計方針	11
4. セグメント情報	13
5. 企業結合	15
6. 販売費及び一般管理費	16
7. 重要な後発事象	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2018年1月1日～2018年9月30日）における当社グループをとりまく経営環境は、海外におきましては、米国の金利引き上げや多くの新興国での通貨安など不安定要因がありながらも、中国、インドネシア、タイ、インドなどの主要参入国において堅調な成長がみられるなか、当社グループは、消費者ニーズに合わせたパーソナルケア関連商品の販売活動を積極的に実施し、持続的な成長の実現に努めてまいりました。

一方、国内におきましては、原材料価格の上昇や、米国との通商問題、相次いでいる自然災害など経済への影響がありながらも、景気回復基調が持続し、個人消費も持ち直しの動きがみられるなか、引き続き高付加価値パーソナルケア関連商品の需要を喚起するための新価値提案を実施した結果、安定的な成長を実現いたしました。

このような経営環境のなか、当社グループは、“世界中の全ての人々のために、快適と感動と喜びを与えるような、世界初・世界No.1の商品とサービスを提供しつづけます”の基本方針に基づき、独自の不織布加工・成形技術と消費者ニーズを捉えた商品の開発に努め、あらゆる世代の人々がお互いに負担を感じることなく、その人らしさを尊重し合いながら暮らせる「共生社会」の実現に向けて取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高498,115百万円（前年同四半期比7.0%増）、コア営業利益75,808百万円（前年同四半期比13.8%増）、税引前四半期利益73,905百万円（前年同四半期比10.4%増）、四半期利益52,475百万円（前年同四半期比8.9%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益47,086百万円（前年同四半期比7.9%増）となりました。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

①パーソナルケア

●ベビーケア関連商品

海外では、安心・安全ニーズに応える日本からの高付加価値輸入商品の需要が高い中国におきまして、引き続きインターネット販売での取り組みを強化し、コーポレートブランドと『ムーニー』ブランドの認知拡大と、パンツ型紙おむつの普及促進に努めたほか、『Baby Love』、『Fitti』及び『PetPet』ブランドを保有しているDSG (Cayman) Limitedの株式を取得し、東南アジア地域、特にタイ及びマレーシアにおける高成長の実現に向けた取り組みを開始いたしました。また、新興国のなかでも紙おむつの普及率が未だ低いインドにおきましては、パンツ型紙おむつで普及促進を図りながら販売エリアとシェアの拡大に努めたほか、ベトナムにおきましては、地方エリアでの配荷拡大により『Bobby』ブランドのシェア拡大に努めてまいりました。

国内では、“ふんわりびたりにモレ安心”の『ムーニー』ブランドにおいて、『ムーニーマン エアフィット』L・ビッグサイズと、紙おむつの表面シートにオーガニックコットンを配合した赤ちゃんのお肌に安心な『Natural moonyman (ナチュラル ムーニーマン)』L・ビッグサイズに乳幼児特有のぽっこりおなかにしっかりフィットする特許技術※「すっぽりハイウエスト」を採用し、おへそまですっぽりカバーすることでズレ下ならず、モレずに安心な商品にリニューアルしてまいりました。また、全ての赤ちゃんが健やかに育ち、いつでも笑顔でいてほしいという願いから、日本ディベロップメンタルケア研究会と連携し、低出生体重（2,500g未満）の赤ちゃんを応援する活動「ちいさないのち応援プロジェクト」キャンペーンを通じて年々増加する低出生体重の赤ちゃんにとって最適な環境づくりをサポートしたほか、ディズニーキャラクターのかわいいデザインとたっぷり吸収の『マミーポコ』ブランドや、夜専用の『オヤスママン』ブランドなどのサブカテゴリー商品とともにリレーションの強化と、笑顔あふれる育児生活の実現に取り組んでまいりました。

※ ウエスト端部は伸縮不織布のみ、股下部材のウエスト側端部では伸縮不織布と糸ゴムが重なる構成

●フェミニンケア関連商品

海外では、中国におきまして、若年層から品質の高さとデザインのかわいらしさに対して引き続き高いご支持を頂いているほか、インドネシアやタイ、ベトナム、インドといった新興国におきましても、消費者ニーズに合わせた商品で販売エリアとさらなるシェアの拡大に努めてまいりました。

国内では、“はばたけ、わたし！”の想いを込めた『ソフィ』ブランドにおいて、女子中高生のライフスタイルや感性に合わせ「おしゃねこ※」デザインを採用した“かわいくてモレ安心”な『ソフィ センターイン ハッピーキャッチ』シリーズに、『ソフィ センターイン ハッピーキャッチ 特に多い昼用26cm』を新発売し、文化祭や修学旅行などの学校行事でも昼の長い時間安心して使用して頂けるよう、ラインアップを拡充してまいりました。また、2008年から実施している「ピンクリボン活動」を今年も11年連続で応援するなど、独自の不織布技術を活かした高付加価値商品の提案や、全ての女性が自分らしく、健やかに毎日を過ごせる取り組みを通じて、女性の体と心の仕組みを科学的に捉えながら、女性の物理的・精神的な束縛からの解放に取り組んでまいりました。

※ 「おしゃれでかわいいねこ」の意味

●ヘルスケア関連商品

海外では、日本以上のスピードで台湾やタイ、インドネシア、中国といったアジア地域でも高齢化が進み、大人用排泄ケア用品の需要が本格化することから、日本で確立したケアモデルをアジア地域に普及させる準備を進めてまいりました。タイにおきましては、大人用紙おむつ市場において優位なポジションを築き、『Certainty』ブランドを保有しているDSG (Cayman) Limitedの株式を取得し、普及加速の実現に向けた取り組みを開始いたしました。

高齢者人口の増加により拡大が続く国内市場におきましては、今までどおり自分らしく生活を送れるようサポートする商品の普及活動に取り組んでまいりました。軽い尿もれ専用品では、“ズボンにしみない、目立たない”工夫をした男性用尿もれ専用品『ライフリー さわやかパッド』シリーズと、吸水ケアを通じて笑顔ある毎日を応援する『チャームナップ』ブランドにおいて、“軽い尿もれ”は誰にでもあることとして抵抗感を払拭する活動を継続して実施してまいりました。大人用紙おむつ・尿もれ専用品『ライフリー』ブランドでは、24時間365日排泄ケアに関するお問い合わせに対応できるよう、大人用紙おむつ業界で初めて人工知能 (Artificial Intelligence) チャットボット※1を採用した「大人用おむつNAVI」などで心と体の健康をサポートしてまいりました。また、高齢化の進行に伴う「閉じこもり」や「認知症」といった社会問題の改善に寄与するため、目的を持って社会と触れ合い誰でも取り組める形にした認知症予防ライフリー「ソーシャル・ウォーキング※2」体験会の継続的な開催や、テレビコマーシャル、ウェブサイト、店頭でのカウンセリングや日常生活動作に合わせた売り場づくりを通じて販売促進にも積極的に取り組み、排泄ケア市場をリードしてまいりました。

日々の健康を守り、安心で快適な暮らしをサポートする『超快適』ブランドにおいては、園児や小学校低学年のお子様のマスク利用の浸透に伴い、園児・低学年時期の小さな顔にぴったりフィットすることも専用マスク『超快適 マスク 園児専用』と、『超快適 マスク 低学年専用』を新発売し、お子様から大人まで一年を通して快適に使用できるマスクのご提案と市場の活性化に努めてまいりました。

※1 人間の代わりに対話するプログラム（もしくは、それを含むシステム全体）のこと

※2 「社会参加&歩行」の造語で、人と関わり、楽しみながら歩くことを誰もが取り組みやすい形にした認知症予防のためのウォーキング（地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所の監修のもと、当社考案）

●クリーン&フレッシュ関連商品

クリーン&フレッシュ国内市場におきましては、住環境やライフスタイルの変化に伴い、リビング周りをいつも清潔に、家中を限られた時間で簡単にお掃除したいというお客様が増えているなか、“片手でポン！ですぐキレイ”のボックス型ウェットティッシュ『シルコット ウェットティッシュ』シリーズや、“家中まるごと、これ一本！”のお掃除用品『ウェーブ』ブランドとともに、日常生活を快適に過ごして頂くための提案に努めてまいりました。また、毎日変化するお肌を健やかに保ち、日々のお手入れを気楽に効果的にする『シルコット コットン』シリーズでは、2分の1の化粧水でも驚くほどのうるおう※1『シルコット うるうるコットン スポンジ仕立て』や、日本初の極細長繊維※2でマイクロ汚れまですっきりふきとる“ふきとり用コットン”『シルコット ふきとりコットン シルキー仕立て』とともにキャンペーンを実施し、多様化する化粧用コットン市場を活性化したほか、訪日外国人によるインバウンド需要に対しても積極的に取り組み、販売促進に努めてまいりました。

※1 当社従来品比

※2 パフを覆うシートが二層構造。肌に接する外側層は10 μ m以下の極細長繊維で、内側が粗いセルロース繊維で形成されている構造。日本における主要ブランドの化粧綿対象。（2015年10月ユニ・チャーム(株)調べ）

この結果、パーソナルケアの売上高は434,760百万円（前年同四半期比7.6%増）、セグメント利益（コア営業利益）は68,791百万円（前年同四半期比14.6%増）となりました。

②ペットケア

人とペットがともに長生きし豊かな生活が送れる「共生社会」と「健康長寿社会」の実現に向け、衛生用品からフードまでペットの生活を総合的にサポートする商品の開発と市場創造に努めてまいりました。

国内ペットトイレタリーにおきましては、近年、愛猫と一緒に過ごす時間を長くとりたいとの思いから、室内に猫用のトイレを設置する飼い主様や、2匹以上の猫を飼育する「多頭飼い」の増加により、猫用のトイレに使用するトイレシートの使用枚数も増加傾向となるなか、『デオトイレ』ブランドに、『デオトイレ 消臭・抗菌シート 大容量20枚入り』と、『デオトイレ 消臭・抗菌シート ふんわり香るナチュラルガーデンの香り 大容量20枚入り』を新発売し、飼い主様の大容量ニーズに応えてまいりました。

国内ペットフードにおきましては、犬用では、良質素材を彩り良く使い、味、食感、栄養バランスの全てにこだわった『グラン・デリ』ブランドに、おいしさと健康を考えた国産鶏肉100%を調理したドッグフード『グラン・デリ 国産鶏ささみ入りパウチ ブロッコリー入り×かぼちゃ入り』ほぐしタイプと、ジュレタイプを新発売したほか、森永製菓(株)と共同開発※した“カリッ”とした食感を楽しめる犬専用おやつ『グラン・デリ ワンちゃん専用おととと』シリーズに、はじめてのフルーツ味『グラン・デリ ワンちゃん専用 おととと バナナ&りんご味』を新発売し、ワンちゃんと一緒に過ごす時間を楽しみたいというニーズに応えてまいりました。

猫用では、猫の大好きな良質なお魚をたっぷり使い、最後の一口まで夢中になる美味しさに仕上げた『銀のスプーン』ブランドの「子ねこ」用と、15歳が近づく頃の「高齢ねこ」用のそれぞれに、「まぐろ・かつお・ささみ」をブレンドした『銀のスプーン パウチ2種のアソートパック』を新発売し、栄養バランスや健康維持を重視した商品のラインアップを充実してまいりました。

北米市場におきましては、日本の技術を搭載した犬用シート、猫用ウェットタイプ副食の販売が引き続き堅調に推移したほか、今後のさらなる成長に向け、近年台頭が著しいインターネット販売やペット専門店・米国特有のDollar store (均一価格店) 業態への取り組みを強化してまいりました。

※ ユニ・チャーム(株)と森永製菓(株)が初めてペット用に共同開発した犬専用のおやつ

この結果、ペットケアの売上高は58,251百万円(前年同四半期比2.1%増)、セグメント利益(コア営業利益)は6,950百万円(前年同四半期比4.0%増)となりました。

③その他

不織布・吸収体の加工・成形技術を活かした業務用商品分野におきまして、産業用資材を中心に販売を進めてまいりました。

この結果、その他の売上高は5,104百万円(前年同四半期比9.3%増)、セグメント利益(コア営業利益)は67百万円(前年同四半期はセグメント利益(コア営業利益)△86百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は788,950百万円(前連結会計年度比7.1%増)となりました。主な増加は、無形資産49,975百万円、棚卸資産13,275百万円、有形固定資産13,075百万円、投資有価証券等のその他の金融資産11,178百万円、主な減少は、現金及び現金同等物40,510百万円によるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は281,756百万円(前連結会計年度比0.7%減)となりました。主な増加は、仕入債務及びその他の債務7,176百万円、未払費用等のその他の流動負債6,819百万円、繰延税金負債1,274百万円、主な減少は、社債及び借入金17,268百万円によるものです。

(資本)

当第3四半期連結会計期間末における資本合計は507,194百万円(前連結会計年度比12.0%増)となりました。主な増加は、親会社の所有者に帰属する四半期利益47,086百万円、自己株式の減少20,724百万円、主な減少は、親会社の所有者への配当金の支払い13,585百万円によるものです。

(親会社所有者帰属持分比率)

当第3四半期連結会計期間末における親会社所有者帰属持分比率は56.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績見通しにつきましては、2018年2月16日発表と変更ありません。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2018年9月30日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		169,903	129,393
売上債権及びその他の債権		98,821	98,708
棚卸資産		60,529	73,804
その他の金融資産		59,119	53,410
その他の流動資産		18,805	24,052
流動資産合計		407,176	379,367
非流動資産			
有形固定資産		228,521	241,597
無形資産		46,563	96,538
繰延税金資産		9,451	9,353
持分法で会計処理されている投資		733	763
その他の金融資産		33,631	50,519
その他の非流動資産		10,568	10,814
非流動資産合計		329,467	409,583
資産合計		736,644	788,950

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2018年9月30日)
負債及び資本			
負債			
流動負債			
仕入債務及びその他の債務		138,480	145,657
社債及び借入金		6,189	13,627
未払法人所得税		11,070	9,981
その他の金融負債		239	1,232
その他の流動負債		38,001	44,819
流動負債合計		193,979	215,316
非流動負債			
社債及び借入金		58,000	33,294
繰延税金負債		18,227	19,501
退職給付に係る負債		8,225	8,368
その他の金融負債		2,111	2,120
その他の非流動負債		3,073	3,157
非流動負債合計		89,636	66,440
負債合計		283,615	281,756
資本			
親会社の所有者に帰属する持分			
資本金		15,993	15,993
資本剰余金		421	10,233
利益剰余金		434,298	467,893
自己株式		△67,652	△46,928
その他の資本の構成要素		4,509	△2,984
親会社の所有者に帰属する持分合計		387,567	444,206
非支配持分		65,461	62,988
資本合計		453,029	507,194
負債及び資本合計		736,644	788,950

(2) 要約四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
売上高	4	465,592	498,115
売上原価		△285,348	△303,115
売上総利益		180,245	195,000
販売費及び一般管理費	6	△113,612	△119,192
その他の収益		962	1,302
その他の費用		△1,394	△1,383
金融収益		2,735	2,399
金融費用		△1,970	△4,221
税引前四半期利益		66,966	73,905
法人所得税費用		△18,790	△21,430
四半期利益		48,177	52,475
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		43,622	47,086
非支配持分		4,555	5,389
四半期利益		48,177	52,475
親会社の所有者に帰属する1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益 (円)		74.21	79.85
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)		71.89	77.80

売上総利益からコア営業利益への調整表

(単位：百万円)

売上総利益	180,245	195,000
販売費及び一般管理費	△113,612	△119,192
コア営業利益 (※)	66,632	75,808

(※) コア営業利益は売上総利益から販売費及び一般管理費を控除した利益であり、IFRSで定義されている指標ではありませんが、当社の取締役会はコア営業利益に基づいて事業セグメントの実績を評価しており、当社の経常的な事業業績を測る指標として有用な情報であると考えられるため、要約四半期連結損益計算書及び注記「4. セグメント情報」に自主的に開示しております。

(3) 要約四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
四半期利益		48,177	52,475
その他の包括利益 (税引後)			
純損益に組み替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融資産の純変動		—	2,997
退職給付に係る負債 (資産) の純額に係る再測定		△44	113
小計		△44	3,110
純損益に組み替えられる可能性のある項目			
売却可能金融資産の公正価値変動		2,870	—
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値変動		△68	48
在外営業活動体の為替換算差額		1,507	△10,828
小計		4,309	△10,780
その他の包括利益 (税引後) 合計額		4,265	△7,670
四半期包括利益合計額		52,441	44,805
四半期包括利益合計額の帰属			
親会社の所有者		47,722	41,804
非支配持分		4,719	3,000
四半期包括利益合計額		52,441	44,805

(4) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)

(単位：百万円)

	注記	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	合計		
2017年1月1日残高		15,993	—	391,800	△53,652	△2,042	352,098	62,289	414,387
四半期利益		—	—	43,622	—	—	43,622	4,555	48,177
その他の包括利益		—	—	—	—	4,100	4,100	164	4,265
四半期包括利益合計		—	—	43,622	—	4,100	47,722	4,719	52,441
自己株式の取得		—	—	—	△14,000	—	△14,000	—	△14,000
配当金		—	—	△9,998	—	—	△9,998	△2,510	△12,509
連結範囲の変動		—	—	△34	—	—	△34	—	△34
非支配持分との資本取引		—	59	—	—	—	59	49	108
株式報酬取引		—	—	—	—	233	233	—	233
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替		—	—	△23	—	23	—	—	—
所有者との取引額等合計		—	59	△10,055	△14,000	256	△23,740	△2,462	△26,202
2017年9月30日残高		15,993	59	425,366	△67,652	2,314	376,080	64,546	440,626

当第3四半期連結累計期間（自 2018年1月1日 至 2018年9月30日）

（単位：百万円）

	注記	親会社の所有者に帰属する持分						非支配 持分	資本合計
		資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	合計		
2018年1月1日残高		15,993	421	434,298	△67,652	4,509	387,567	65,461	453,029
四半期利益		—	—	47,086	—	—	47,086	5,389	52,475
その他の包括利益		—	—	—	—	△5,281	△5,281	△2,389	△7,670
四半期包括利益合計		—	—	47,086	—	△5,281	41,804	3,000	44,805
自己株式の取得		—	—	—	△0	—	△0	—	△0
転換社債型新株予約権 付社債の転換		—	7,424	—	20,725	△2,118	26,031	—	26,031
配当金		—	—	△13,585	—	—	△13,585	△7,984	△21,569
連結範囲の変動		—	—	—	—	—	—	68	68
非支配持分との資本取 引		—	2,388	—	—	—	2,388	2,442	4,830
その他の資本の構成要 素から利益剰余金への 振替		—	—	94	—	△94	—	—	—
所有者との取引額等 合計		—	9,812	△13,491	20,724	△2,211	14,834	△5,474	9,360
2018年9月30日残高		15,993	10,233	467,893	△46,928	△2,984	444,206	62,988	507,194

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

1. 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

2. 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結会計期間において、DSG (Cayman) Limitedの全株式を取得し子会社化したことに伴い、同社及びその子会社であるDSG International (Thailand) Public Company Limited他8社を連結の範囲に含めております。

なお、DSG International (Thailand) Public Company Limitedは当社の特定子会社に該当しております。

3. 重要な会計方針

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下に記載する会計方針の変更を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

なお、各四半期における法人所得税は、見積年次平均実効税率に基づいて算定しております。

当社グループは、第1四半期連結会計期間より以下の基準を適用しております。

基準書	基準名	新設・改訂の概要
IFRS第9号	金融商品	金融商品の分類・測定、減損及びヘッジ会計に関する改訂
IFRS第15号	顧客との契約から生じる収益	収益の認識に関する会計処理の改訂

その他の新たな基準書及び解釈指針の適用による要約四半期連結財務諸表への重要な影響はありません。

当社グループは、IFRS第9号「金融商品」（以下「IFRS第9号」という。）及びIFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」（以下「IFRS第15号」という。）の経過措置に従って、前連結会計年度の連結財務諸表の修正再表示を行っておりません。

(1) IFRS第9号の適用

当社グループは、第1四半期連結会計期間よりIFRS第9号を適用しており、非デリバティブ金融資産の会計方針を以下のとおりに変更しております。

① 当初認識及び測定

当社グループは、保有する金融資産を(a)償却原価で測定する金融資産、(b)その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融資産、(c)純損益を通じて公正価値で測定する金融資産の区分に分類しております。この分類は、金融資産の当初認識時に決定しております。

当社グループは、売上債権及びその他の債権を発生日に当初認識しており、その他の金融資産は契約の当事者となった取引日に当初認識しております。当初認識時においては、全ての金融資産を公正価値で測定しておりますが、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産に分類されない場合は、当該公正価値に金融資産の取得に直接帰属する取引費用を加算した金額で測定しております。純損益を通じて公正価値で測定する金融資産の取引費用は、純損益で認識しております。

(a) 償却原価で測定する金融資産

当社グループが保有する金融資産のうち、以下の要件をともに満たす場合には、償却原価で測定する金融資産に分類しております。

- ・ 契約上のキャッシュ・フローを回収するために金融資産を保有することを目的とする事業モデルに基づいて保有されている。
- ・ 金融資産の契約条件により、元本及び元本残高に対する利息の支払いのみであるキャッシュ・フローが特定の日に生じる。

当初認識後は実効金利法による償却原価から減損損失を控除した金額で測定しております。実効金利法による償却額及び認識が中止された場合の利得または損失は、当期の純損益で認識しております。

(b) その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融資産

償却原価で測定する金融資産以外の金融資産のうち、当初認識時に事後の公正価値の変動をその他の包括利益で表示するという取消不能な選択をした資本性金融資産につきましては、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融資産に分類しております。

当初認識後は公正価値で測定し、その変動額はその他の包括利益として認識しております。当該金融資産の認識を中止した場合、その他の包括利益を通じて認識された利得または損失の累積額を利益剰余金に直接振り替えております。

なお、当該金融資産からの配当金につきましては、純損益として認識しております。

(c) 純損益を通じて公正価値で測定する金融資産

償却原価で測定する金融資産、またはその他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融資産以外の金融資産は、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産に分類しております。

当初認識後は公正価値で測定し、その変動額は純損益として認識しております。

② 金融資産の減損

償却原価で測定する金融資産等に係る減損につきましては、当該金融資産に係る予想信用損失に対して貸倒引当金を認識しております。

当社グループは、連結会計期間の末日ごとに、金融資産に係る信用リスクが当初認識以降に著しく増大したかどうかを評価しております。

金融商品に係る信用リスクが当初認識以降に著しく増大していない場合には、当該金融商品に係る貸倒引当金を12ヶ月の予想信用損失と同額で測定しております。金融商品に係る信用リスクが当初認識以降に著しく増大している場合には、当該金融商品に係る貸倒引当金を全期間の予想信用損失と同額で測定しております。

ただし、重大な金融要素を含んでいない売上債権等につきましては、常に貸倒引当金を全期間の予想信用損失と同額で測定しております。

金融商品の予想信用損失は、以下のものを反映する方法で見積もっております。

- ・ 一定範囲の生じ得る結果を評価することにより算定される、偏りのない確率加重金額
- ・ 貨幣の時間価値
- ・ 連結会計期間の末日時点で過大なコストまたは労力なしに利用可能である、過去の事象、現在の状況、並びに将来の経済状況の予測についての合理的で裏付け可能な情報

当該測定に係る金額は、純損益として認識しております。減損損失認識後に減損損失を減額する事象が発生した場合は、減損損失の減少額を純損益として戻し入れております。

IFRS第9号の適用に伴う、金融資産の分類変更から生じる影響は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

IAS第39号 (2017年12月31日)		分類変更		IFRS第9号 (2018年1月1日)	
現金及び現金同等物	169,903	—	169,903	償却原価で測定する金融資産 現金及び現金同等物	
貸付金及び債権					
売上債権及びその他の債権	98,821	—	98,821	売上債権及びその他の債権	
その他の金融資産（流動）	58,925	—	58,925	その他の金融資産（流動）	
その他の金融資産（非流動）	14,390	—	14,390	その他の金融資産（非流動）	
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				純損益を通じて公正価値で測定する金融資産	
その他の金融資産（流動）	195	—	195	その他の金融資産（流動）	
	—	130	130	その他の金融資産（非流動）	
売却可能金融資産				その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融資産	
その他の金融資産（非流動）	19,242	△130	19,112	その他の金融資産（非流動）	
合計	361,474	—	361,474	合計	

(2) IFRS第15号の適用

当社グループは、第1四半期連結会計期間よりIFRS第15号を適用しており、収益の認識に関する会計方針を以下のとおりに変更しております。

当社グループは、以下の5ステップアプローチに基づき、収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：取引価格を契約における履行義務に配分する。

ステップ5：履行義務の充足時に収益を認識する。

当社グループは、ベビーケア関連商品・フェミニンケア関連商品等のパーソナルケア、並びにペットケア等の製造及び販売を主な事業としており、このような商品販売につきましては、商品の引渡時点において顧客が当該商品に対する支配を獲得することから、履行義務が充足されると判断しており、当該商品の引渡時点で収益を認識しております。また、収益は顧客への財の移転と交換に企業が権利を得ると見込んでいる対価の金額で認識しており、値引、割戻し及び付加価値税等の税金を控除後の金額で測定しております。

なお、IFRS第15号の適用による影響は軽微であります。

4. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、当社グループの最高経営意思決定機関である取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象として決定しております。

当社グループは、パーソナルケア、ペットケア、その他の3つの事業単位を基本に組織が構成されており、各事業単位で日本及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは「パーソナルケア」「ペットケア」「その他」の3つを報告セグメントとしております。

「パーソナルケア」は、ベビーケア関連商品、フェミニンケア関連商品、ヘルスケア関連商品及びクリーン&フレッシュ関連商品等の製造・販売という4つの事業からなりますが、商品の性質、生産過程及び配送方法の類似性や、各販売地域における市場の類似性により集約して報告しております。「ペットケア」は、ペットフード関連商品及びペットトイレタリー関連商品等の製造・販売をしております。「その他」は、産業用資材関連商品等の製造・販売をしております。

なお、報告セグメントの会計方針は要約四半期連結財務諸表と同一であります。また、セグメント利益はコア営業利益（売上総利益から販売費及び一般管理費を控除した利益）であり、取締役会はコア営業利益に基づいて事業セグメントの実績を評価しております。

(2) 報告セグメントごとの売上高及び業績

報告セグメントごとの売上高及び業績は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)					
	報告セグメント				調整額	要約四半期 連結財務諸表 計上額
	パーソナル ケア	ペットケア	その他	計		
外部顧客への売上高	403,877	57,048	4,668	465,592	—	465,592
セグメント間の売上高 (注)	—	—	21	21	△21	—
セグメント売上高合計	403,877	57,048	4,689	465,613	△21	465,592
セグメント利益 (コア営業利益)	60,037	6,681	△86	66,632	—	66,632
その他の収益						962
その他の費用						△1,394
金融収益						2,735
金融費用						△1,970
税引前四半期利益						66,966

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)					
	報告セグメント				調整額	要約四半期 連結財務諸表 計上額
	パーソナル ケア	ペットケア	その他	計		
外部顧客への売上高	434,760	58,251	5,104	498,115	—	498,115
セグメント間の売上高 (注)	—	—	23	23	△23	—
セグメント売上高合計	434,760	58,251	5,126	498,138	△23	498,115
セグメント利益 (コア営業利益)	68,791	6,950	67	75,808	—	75,808
その他の収益						1,302
その他の費用						△1,383
金融収益						2,399
金融費用						△4,221
税引前四半期利益						73,905

(注) セグメント間の売上高は、市場実勢価格を参考にしております。

5. 企業結合

前第3四半期連結累計期間（自 2017年1月1日 至 2017年9月30日）

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2018年1月1日 至 2018年9月30日）

(1) 企業結合の概要

2018年9月25日に、当社はDSG (Cayman) Limited（以下「DSGCL」）の株式の100%を取得いたしました。

当社は重点国・地域への集中を重要な戦略として掲げており、特に成長著しいアジア地域での事業展開を積極的に進めてまいりました。

DSGCLグループは、タイ、マレーシア、インドネシア、シンガポールに拠点を置き、ベビー用紙おむつ及び大人用紙おむつの製造・販売を行う企業グループです。DSGCLグループはベビー用紙おむつとして「BabyLove」、「Fitti」及び「PetPet」、大人用紙おむつとしては「Certainty」といったブランドを保有し、東南アジア地域において強固なマーケットシェアと高い認知度を有しており、特に、将来、日本以上のスピードで高齢化が進むと見込まれるタイの大人用紙おむつ市場において優位なポジションを築いております。

DSGCLグループが当社グループに加わることで、(i)東南アジア地域、特にタイ及びマレーシアにおける商品ラインの拡充とマーケットポジションの強化及び規模の経済の実現や、(ii)物流機能等のオペレーション統合によるコスト削減等が見込めることから、当社として今回の買収を決定いたしました。今後、これらのシナジーを追求していくことで、東南アジア地域におけるさらなる高成長を実現してまいります。

(2) 取得日現在における支払対価、取得資産及び引受負債の公正価値

(単位：百万円)

	金額
支払対価の公正価値(現金)	59,901
取得資産及び引受負債の公正価値	
流動資産	12,991
非流動資産	11,034
流動負債	△10,547
非流動負債	△4,353
取得資産及び引受負債の公正価値(純額)	8,765
のれん	51,135

取得した資産及び引き受けた負債につきましては、当第3四半期連結会計期間末において取得価額の配分が完了していないため、現時点で入手可能な情報に基づいて暫定的に算定しております。

当企業結合に係る取得関連費用は688百万円であり、当第3四半期連結累計期間の要約四半期連結損益計算書の「その他の費用」に計上しております。

のれんの主な内容は、取得から生じることが期待される既存事業とのシナジー効果と超過収益力であります。

6. 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費の内訳は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
販売運賃諸掛	30,111	32,663
販売促進費	14,575	14,937
広告宣伝費	15,363	16,295
従業員給付費用	24,989	25,524
減価償却費及び償却費	3,764	3,906
研究開発費	4,798	4,849
その他	20,012	21,019
合計	113,612	119,192

7. 重要な後発事象

(自己株式の取得)

当社は、2018年11月5日開催の取締役会において、会社法第459条第1項第1号の規定による定款の定めに基づき、以下のとおり自己株式の取得を行うことを決議いたしました。

(1) 自己株式の取得を行う理由

株主の皆様への一層の利益還元と経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするためであります。

(2) 取得の内容

- | | |
|-------------|--|
| ①取得する株式の種類 | 当社普通株式 |
| ②取得する株式の総数 | 5,500,000株 (上限)
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合0.92%) |
| ③株式の取得価額の総額 | 15,500百万円 (上限) |
| ④取得する期間 | 2018年11月6日～2018年12月20日 |
| ⑤取得の方法 | 東京証券取引所における市場買付 (証券会社による投資一任方式) |